

An die Freude



佐久第九演奏会ニュース No21 H23.8.26

第11回コスモホール佐久第九がスタート

二〇一一年の佐久第九に向けて

指揮者 藤本淳也

ここ数年、皆様方と第九と一緒に演奏してきました。皆様の演奏が毎年着実にレベルアップしているように思います。それはお客様の反応から伺えますし、レセプションでの合唱団員の達成感に満ちたお顔を拝見していても感じられるからです。実際の演奏では、合唱の四パートがバランスよく表現されていて、時には一つになり、またあるときには各パート間で音楽を競い合いながら、オーケストラを凌駕する程の表現力と集中力を発揮していました。しかしながら今年また一緒に過ごさせていただく

にあたり、私なりに昨年の演奏を振り返りながら、新たな目標を共有して演奏出来ればと存じます。
さて、合唱団の皆さんは第九を毎年演奏していますので、基本的な内容や表現においては十分体得されていると思います。また演奏会の持つ高揚感も経験しています。これから、第九を舞台上で自信を持って演奏できることでしょうか。今こうしてペンを取り

ながらも、昨年の皆さんの歌声が聞こえてきます。本当に良かった。ただ、さらなる高みを目指すなら是非チャレンジして頂きたいことがあります。それは柔らかいピアノの表現です。

これはオーケストラにも言えることですが、フォルテで演奏することは意外に簡単な反面、ピアノでもしかも柔らかい高音を出すのはテクニク的、肉体的、精神的にもきついのはご存じのはずです。またこれとは逆に、合唱の中低音域では簡単に歌えてしまうので地声になりやすいですね。佐久の第九は十分完成されていますが、頂いたCDを時々聞きますと、まさにピアノをどれだけ音楽的に表現するか、次の課題に思えてなりません。そして合唱の四パートそれぞれには異なる難所がありますし、これを克服するためには地道な練習が要求されると思います。

そこで、合唱指揮の内田先生はじめ、新たに選ばれたパートリーダーの方々には大変ご苦労をお掛け致しますが、団員の皆さんと内容を工夫されながら、気負うことなく、力まず、楽しさの中にチャレンジする気持ちを織り交ぜて練習を進めて頂ければ幸いです。また、決して頑張りすぎる必要はありませんから、普段の練習の中で昨年とは違うサウンドを皆さんで見つけて下さい。
今年もリハーサルでお会いする日を楽しみにしています。



東京藝術大学指揮科卒業。安宅賞受賞。同大学院修士課程修了。指揮を佐藤功太郎氏に師事。
一九九五年、テコロで行われた「ブラハの春」国際指揮者コンクールのセミファイナリスト。
二〇〇〇年、フィリピンでセブ島にてセブユニオンシンフォニーオーケストラ(CUBO)を指揮。二〇〇一年、ロータリー財団奨学生としてベルリンに留学。ベルリン芸術大学 Peter Wittker 氏のオペラ実習クラスでイタリヤオペラを学ぶ。またベルリン国立歌劇場にてクニエル・パレンボイム氏のもと、モーツァルトのオペラを学ぶ。これまで、群馬交響楽団、大阪シンフォニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団をそれぞれ指揮。韓国で行われた「The 4 Arts Festival Daegu 2008」の指揮。韓国で行われた「The 4 Arts Festival Daegu 2008」の指揮。韓国で行われた「The 4 Arts Festival Daegu 2008」の指揮。
最近では、管内オペラ団体の各公演に音楽スタッフとして参加。また、各地のオペラ団体、オーケストラ、合唱団の指揮、演奏も行っている。一昨年は東京室内歌劇団「ハンガリー、ブルガリア」公演に参加。
昨年二〇月、Ensemble Interactive「TOHIO」のヨーロッパ公演に同行しスロヴェニア、クロアチア、オーストリアで指揮。現在は登山。
東京室内歌劇団幹事。 (社)日本演劇連盟会員、昭和音楽大学非常勤講師